

先日の保育証書授与式に、園長の祝辞として以下のような言葉を贈らせていただきました。
(一部要約していますので、この通りではありません)

アメリカの神学者であるラインホルド・ニーバーの祈りの言葉。

「神よ、変えることのできるものについて、それを変えるだけの勇気を我らに与えたまえ。

変えることのできないものについては、それを受け入れるだけの冷静さを与えたまえ。

そして、変えることのできるものと、変えることのできないものとを識別する知恵を与えたまえ。」

当然のことですが、人には、がんばれば「できること」と、どんなにがんばっても「できないこと」があります。子どもたちにはぜひ、いろんなことにチャレンジしてほしいと思いますし、簡単にあきらめることなく、力の限り努力をしてほしいと思っています。

しかし、そこで大切なのは、「できること、できないことを決めたのは自分だ」と子どもたち自身が言えるような育ちを保障してあげることです。

子どもの相談に乗ってあげることは大切ですが、あとになって「本当はこれがやりたかったのにお父さんがダメだって言ったからやらなかった」とか、「わたしにはこれ以上無理なのに、おかあさんがどうしてもやれって言ったから・・・」などということにならないように、「これはばくがどうしてもやりたかったことなんだ」「がんばったけど、これはわたしにはどうしてもできない。ここであきらめよう」などと「**子どもが自分で決める機会**」をたくさん作ってあげてください。**子どもの人生の主人公は子ども自身**なのです。

これから先、子どもたちは変化の激しい時代を生きていくことになります。だからこそ、「考えることを楽しみ、対話を大切にする人」「人とのつながりを大切にし、他人を思いやる心を持つ人」に成長してくれることを願っています。

子どもたちは「自ら成長する力」を備えています。親御さんたちは、どうぞその力を信じて、どんな時でも子どもの一番の味方でいてください。深い愛情とあたたかいまなざしで子どもの未来を見守ってあげてください。家族の温かいぬくもりを十分感じさせてあげて下さい。大人の敷いたレールの上を走らせるのではなく、「あなたの人生はあなたのもの。あなたらしく生きていけばいいよ」と励まし、子どもに「自分を信じる力」をつけてあげて下さい。十分な愛情を受けて育った子どもは、きっと愛情あふれる人に育つはずです。

日々の生活を子どもたちといっしょに楽しみながら、ゆっくりと
子どもも大人も育ち合っていきたいものです。

